
平成 21 年度手帳専門委員会

平成 21 年 4 月 19 日(日) 於 愛知県犬山市「名鉄犬山ホテル」

さる 4 月 19 日(日) 14 時より、愛知県犬山市「名鉄犬山ホテル」にて 15 社 18 名の参加にて平成 21 年度手帳専門委員会が開催された。

伊藤愛知手帳部会長の主催者挨拶に続き、田中全製工連副理事長の御挨拶、吉澤東京手帳部会長、小野木大阪手帳部会長の各工組代表挨拶の後に参加社の自己紹介・業況・保有課題が順次発表され意見・情報の交換が行われた。

(業況・保有課題)

- ・ 各社バラツキは有るが全体的には売上減または横這いの会社が大半で、大阪工組組合員アンケートにおいても他の品種に比べ若干恵まれた状況ではあるが、昨年の秋以降の不況の影響も有り、今年に向けて不安をかなり感じている。特に愛知県では自動車不況の影響が、顕著に出ている。
- ・ カーボンフットプリント、グリーン購入法等、環境に配慮しつつ、品質要求の厳格化に対応するコストの増大、原材料の高騰等により、利益を圧迫する状況が続いており、概ね減益となっている。
- ・ ベテランが定年を迎え、若い方への技術の伝承もあり、印刷のデジタル化も進み、製本段階だけでなく、逆に印刷段階まででのミスの撲滅に各社苦慮している。
- ・ 塩ビは復権基調に有り、今年は若干、価格が下がる見込みである。
- ・ 中国製品も、脅威となっているが、逆に中国に対して世界不況脱出の起爆剤となるよう、期待も大きい。

以上で 3 時間に及ぶ熱心な情報交換を終了した。